

学年	教科等	単元名	日時
第5学年	外国語活動	What would you like ?	平成30年2月2日(金)3校時
本実践の主張	<p>相手や他者の好み、場面や状況等を考えて “Good idea.” “How about ~?” 等の英語を使って感想や提案を言わせることで、「その場で」思考・判断し、伝えようとする姿をめざす。</p>		
	<p>○ 友達が考えたメニューを聞いた子どもは「自分も食べたい組み合わせだな」「野菜が足りないからサラダを勧めてみよう」等と思考・判断し、英語等を使いながら感想や提案等を伝える。それは好みだけでなく栄養のバランスや年齢、イベントがある日なのか等を考慮するなど、他者に配慮しながらのやり取りになっているはずである。バランスの悪いメニューへのアドバイスや、自分と友達それぞれが考えたメニューを比較したうえで感想やアドバイスを伝えさせることで、「その場で」考えて伝える経験を徐々に積んでいけるようにする。</p> <p>上記の手立てを講じることで、目の前の相手や友達の家族という「他者」への意識をもちながら “Good idea.” “How about ~?” 等の英語を使って会話をつなげるなかで、提案を受け入れながらともによりよいものを作り上げる喜びを味わったり、人それぞれ好みや状況等が違うことに気付いたりすることができるのではないかと考える。</p>		

### 子どもの姿：

- 次時の本番に向け、これまで慣れ親しんできた英語表現を確認しながら使う姿
- これまで慣れ親しんできた英語表現を使って注文のやり取りを楽しむ姿
- 家庭科の学習を生かしながらバランスのよい食事にしようとする姿
- 友達の家族のメニューに対して、誰へのメニューなのかや栄養バランス等を考えながら “Nice.” 等の感想や “How about salad?” 等のアドバイスをする姿
- まだ慣れ親しみが不十分な表現があり、なかなか英語で言うことができない姿



### 実践をふりかえって：

- ・ 「他者意識をもたせながら、英語でのやり取りを楽しませたい」という思いのもと、単元構成を行った。そのため、単元開始時からやり取りで使う語句や表現に慣れ親しむようにしたが、“This is ハッピーMEAL for my mother.” の部分が、英文が長かったり、“this is” や家族の呼称への慣れ親しみが足りなかったりして、なかなか自信をもって言うことができなかった。全員に十分慣れ親しませることができているならば、実際のコミュニケーション活動中にもっと英語を使おうとする姿、英語を使っている姿が見られたであろう。もしくは、英語ではなく、日本語で伝えたり、日本語で書いたものを見せたりするようにしてもよかったのではないかと。
- ・ 導入で教師が家族に向けて作ったバランスの悪いメニューを提示し、子どもは年齢や栄養のバランスを考えて教師にアドバイスをした。このことは本時のコミュニケーション活動で重視してほしい「他者意識」への意識付けにつながったと考える。
- ・ 単元のゴールの活動と同じ活動を本時で行ったことで、次時のやり取りでは本時より自信をもって英語を積極的に使う姿が見られた。使う英語を同じにして、似た活動や同じ活動をくり返す単元構成のよさを改めて感じる事ができた。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

# 授業実践計画

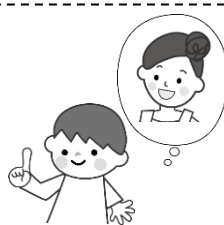
## ○ 指導計画全6時間（5時間＋短時間学習 15分×3）

- (1) 欲しいものについて伝え合うときの丁寧な英語表現を知り、単元の見通しをもつ。—— 1時間
- (2) 丁寧な英語表現を使って、欲しいものを伝え合う活動を楽しむ。—— 3時間
- 自分が注文したいものを伝え合う。…… 1
- （短時間1）Do you like～？を使って友達に食べ物の好みをインタビューする。
- 友達のためのメニューを考えて伝え合う。…… 1
- （短時間2・3）チャンツ等で英語に慣れ親しんだり、家族の好み等を考慮してメニューを考えたりする。
- 家族のために考えたメニューについてアドバイスし合う。…… 1（本時）
- (3) 家族のために考えたメニューを注文し、完成させる。—— 1時間
- 【事後】家族にメニューをプレゼントし、家族から感想を書いてもらう。

## ○ 本時の目標

家族のために考えたメニューを英語等を使って伝えたり、メニューに対する感想や提案等を積極的に伝え合おうとしたりする。

## ○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり						
<p>1 注文のやり取りの Small Talk やクイズをして、本時学習の見通しをもつ。</p> <p>○ めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達の「家族にぴったりメニュー」を聞いて、感想やアドバイスを伝えよう。</p> </div> <p>2 グループ内で「家族の〇〇にぴったりメニュー」を各自発表し、感想や提案等を伝え合う。</p> <p>○ やり取りの例（店：店員役、客：客役）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>店A：What would you like? 客：I'd like corn soup. 店A：Here you are. (写真を渡す) 客：Thank you. 店B：What would you like? (同様にくり返す) 店C：Here you are. (写真を渡す) 客：Thank you. (完成したメニューを見せる) This is "HAPPY MEAL" for my mother. How about my menu? 店A：Nice. I like this menu. 客：Thank you. 店B：How about miso soup?</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>“〇〇MEAL”の〇〇部分は子どもが考えて名前を付ける。</p> </div> </div> <p>○ もたせたい思いの例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">店員役</th> <th style="width: 50%;">客役</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 栄養バランスを考えたらコーンスープよりみそ汁の方がいいんじゃないのかな。</td> <td>・ そうか、お母さんは外食でもみそ汁を食べることが多いな。そうしよう。Good idea!</td> </tr> <tr> <td>・ 妹さんの誕生日ならケーキがある方がいいな。</td> <td>・ グループの人がケーキをすすめてくれたけど、妹は卵アレルギーだから、“No, thank you.”と言おう。</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 本時学習をふりかえる。</p> <p>○ 本時学習の感想と次時でがんばりたいこと</p>	店員役	客役	・ 栄養バランスを考えたらコーンスープよりみそ汁の方がいいんじゃないのかな。	・ そうか、お母さんは外食でもみそ汁を食べることが多いな。そうしよう。Good idea!	・ 妹さんの誕生日ならケーキがある方がいいな。	・ グループの人がケーキをすすめてくれたけど、妹は卵アレルギーだから、“No, thank you.”と言おう。	<p>○ 教師と子どもでレストランの場面のやり取りをして、対話を続けるモデルを示すことで、既習表現の定着を図ったり、学習活動2のやり取りのイメージをもったりすることができるようにする。</p> <p>○ 教師が家族のために考えたメニューに関するクイズの答えやメニューに対するアドバイスを考えさせることで、好みや年齢等を考慮した「他者」への意識をもつことができるようにする。</p> <p>○ コミュニケーション活動の流れを次のようにすることで、単元のゴールで使う英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションへの積極的な態度が表れるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 3～4人のグループを作り、客役1人に対して“What would you like?”と尋ねる。</p> <p>② 客役は“I'd like～.”を使って家族の誰かのために考えたメニューを伝える。店員役は料理の写真を渡す。最後の注文が終わったら、客役は“How about my menu?”と感想や提案を求める。</p> <p>③ 店員役は各自“Good idea.”“How about～?”等を使って返答する。</p> <p>④ 客役は賛同されたことによって自信をもちたり、アドバイスによって見直しを行ったりしながら、メニューを再考する。</p> </div> <p>○ 家庭科の学習や生活経験等を生かしたり、友達やその家族のことを考えたりしたうえで感想や提案をしている姿を紹介することで、なかなか自分では考えられない子どもの参考になるようにする。</p> <p>○ 上記①～④の活動に取り組みさせることで、よりよいメニューにしようとしたり、次時でメニューを完成させたりすることへの意欲を高められるようにする。</p> <p>○ 感想や提案を伝え合えた心地よさを全体で共有することで、次時への期待感をもちながらふりかえることができるようにする。</p>
店員役	客役						
・ 栄養バランスを考えたらコーンスープよりみそ汁の方がいいんじゃないのかな。	・ そうか、お母さんは外食でもみそ汁を食べることが多いな。そうしよう。Good idea!						
・ 妹さんの誕生日ならケーキがある方がいいな。	・ グループの人がケーキをすすめてくれたけど、妹は卵アレルギーだから、“No, thank you.”と言おう。						
<p>○ 学びの本質に向かっている子どもの姿</p>							

〇〇さんはお兄さんのことが好きなんだろうな。お兄さんの好物かもしれないけど、栄養バランスを考えたらフライドチキンよりサラダの方がいいのではないかな。よし、“How about salad?”と言ってみよう。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

